

胸上地区 地域説明会 会議録（概要）

- 日 時 令和 8 年 7 月 6 日（月）19：00～19：40
- 場 所 東児公民館 2 階 多目的室
- 参加者 地域住民 3 名
- 傍聴者 （オブザーバー）市議会議員 2 名、報道関係者 0 名

1 再編準備委員会の設置等について

事務局 資料に基づき説明

2 質疑・応答

住民 A： 資料の 6 ページにおいて、令和 12 年から 15 年ぐらいいにかけて後閑小学校の児童数が少し増えている推計になっていますが、どのような背景があるのか知りたいです。

また、要望になりますが、資料の 5 ページに「食料生産についての授業」が例として挙げられています。これを見ると、子どもの数が多い方が多様な考え方を認め合えるという点で良いという説明だと思います。もちろん対話も大切ですが、生産者の方と触れ合うなど、学校がもっと地域と関わる「体験」が非常に大事ではないかと考えています。子どもの数も大事ですが、様々な立場の人と関わり合うことこそが、多様な考えを自分の中に取り込むということではないでしょうか。一つの学びについても様々なアプローチがあると思いますので、これだけではないと感じたのが一点です。

もう一つは、要望と危惧です。学校再編をしても、胸上小学校の人数がいずれ減ってしまうことが予想され、結局また他の小学校と合併することになっては元も子もない気がしますので、この地域に暮らしながらも、大規模校に通う子どもたちと同じような教育を受けられるようにしていただきたいです。例えば、港に来られている外国の方とのオンラインを活用した交流体験など、様々な方法があると思います。地域にしながら多様な体験ができ、いろいろな考え方に触れられるような学びの場を増やしていただけると嬉しいです。

事務局： 子どもの数の推計についてですが、これは「コーホート変化率法」という、二時点の変化率を用いて推計する手法を利用しています。年齢ごとの人口が過去どのように変化したかをもとに将来の人口を見込む方法です。

後閑小学校は、令和 8 年度に 19 名という推計になっております。実際にその地域には 19 名程度の子どものが住んでいるのですが、現在、そのほとんどが学区外の別の学校へ通ってしまっているため、後閑小学校に実際に在籍している子どもは数名しかおりません。推計グラフはその地域に住んでいる子どもの数を基準に計算しているため、実際の在籍数とは少し差が生じます。

住民 B： 要するに、複式学級になるのが良くないということで学校再編がされているという認識でよろしいでしょうか。資料にあったように子どもがどんどん減

っていく中で、どのタイミングで他の学校と一緒にするのかという基準があればお聞きしたいというのが一つです。

もう一つは大人目線での意見になりますが、私自身も胸上小学校の出身ですので、母校が残ることはまだ良いのですが、母校がなくなってしまう方が結構いらっしゃることに対する配慮などはあるのでしょうか。校歌を変えるなどの話もありましたが、やはり母校の校歌がなくなるのは少し寂しいものがあると思います。その点の配慮があれば教えてください。

事務局： 複式学級というのは、児童数が減少していくことにより、やむを得ず編成するものですので、通常の学校とは異なる形での学校運営になります。そうしたところを見据えますと、やはり通常の適正な学校規模を確保して、複式学級を発生させないということが大きな目的になっています。また学校再編を進めていく上で、各学校それぞれ歴史がありますが、学校名や校歌が変わるというところもあります。今回の再編では、新しい学校を作っていくというところが一つの目的としてありますので、学校名も各校に通われている児童や先生、地域の方から募集したり、校歌を作る場合もフレーズを児童の皆さんから募集して作り上げていくというようなところから始めております。確かに母校がなくなる寂しさはあるかと存じますが、今いる児童が新しい学校を作っていくという趣旨での再編となりますので、その点については何卒ご理解いただきたいと考えております。

住民 B： よくわかりました。

住民 C： 私は以前、胸上小学校の学校運営委員協議会委員を務めておりました。その際、鉾立小学校の休校に伴う統合問題がありました。その時に会議の場に教育委員会から来られたのは主幹の方が2名だけでした。なぜあの時、もっと上層部の方が来てくれなかったのかと疑問に思いました。ところが、今日は参加者が非常に少ないにもかかわらず、スタッフの皆様が大変多く来られています。あの時とは全く逆の状況です。この件について、どのような経緯になっているのかお伺いしたいと思います。今回は逆転しておりますが、もう少し教育委員会の方には真摯に考えていただきたいと思っております。

事務局： 鉾立小学校の休校の際には大変ご不便をおかけし、お詫びいたします。今回は各学校の具体的な再編を進めていくというところで、教育長以下関係スタッフを全動員して、説明会を行っております。

現在、鉾立地区の児童はすでに胸上小学校に通っております。統合後1年近くが経ち、児童へアンケートを取った結果、9割以上の子どもが「もう慣れた」と回答し、人が増えたことについても8割以上が「良かった」と答えています。やはり子どもたちは環境が変わっても適応が早く、すぐに馴染んでいきます。そうした状況も踏まえると、小規模の良さもありますが、胸上小学校に来て一定規模の中で一緒に勉強するのが楽しいという状況が生まれて

います。地域の方にも、一定程度そうした状況をご理解いただけているのではないかと考えております。

本日で一通り胸上小、山田小、後閑小の地域説明会が終了します。今後、地区によっては必要に応じて再度説明会を開催する可能性も検討しておりますが、保護者の方はもちろん、地域の皆様にもこの再編にご理解いただけるよう、一つ一つ丁寧な形で進めさせていただきたいと考えております。

住民 A： 現在、読み聞かせボランティアで胸上小学校と東児中学校に行っています。以前、鉾立小学校にも行っていましたが、合併する前は地域の方も児童も不安な感じでした。しかし、この間読み聞かせに行った際、子どもたちは本当に適応能力が高く、みんな楽しそうに学習していました。バスの利用も快適なようで、「暑い中ずっと歩くよりもバスの方がいい」といった話もしており、とても良い雰囲気だと感じました。一番は子どもたちが楽しく健やかに学べることだと思いますが、やはり地域の方の複雑な思いというのは、鉾立地区の方に関してはいまだに残っていると思います。そこをフォローするためにも、現状の子どもたちの様子を見てもらう機会を作ったり、アンケート結果を周知したりするなど、鉾立地区の人たちにしっかりとお伝えする方が良いのではないかと思います。

1つ質問なのですが、バスの2Kmというのは、例えばギリギリ1.95kmで、ちょっと歩くの大変だからバスに乗りたいといったケースもあると思います。その場合はどうなるのか教えてください。

事務局： 境界線の判断についてですが、今後、各地域の皆様や保護者の皆様にご参加いただき再編準備委員会を立ち上げます。この委員会において、概ね2kmという範囲はお示しいたしますが、境界部分を一つ一つ確認し、皆様に相談して決めていただく形になります。

また、地域の拠点となる小学校がなくなるというのは、地域の皆様にとって非常に大きな問題です。反対の声を上げられる方の中には、「若者が入ってこなくなるのではないか」「地域の拠点がなくなり寂れてしまうのではないか」といったご意見も多くいただきます。そうした中で、現在、再編と並行して学校の跡地利用についても他部署と連携して検討を進めております。これは教育委員会だけでは対応できませんので、市役所全体で20以上の所管が参加し、まずは方針を立てているところです。今後、閉校が決まりましたら、そこをどのような形で利用していくのかを検討しますが、行政のみで考えるのではなく、地域の皆様のご意見を伺う場を設ける予定です。教育委員会としては子どもたちのことを第一に考えますが、跡地利用についても並行してしっかりと取り組んでまいります。

事務局： 本日は、胸上地区の地域住民の皆様を対象とした説明会にご参加いただき、誠にありがとうございました。この度の学校再編につきましては、各地域ごとに一つ一つ、再編の必要性についてご理解いただくための説明会を重ねて

まいりました。教育委員会といたしましては、保護者の皆様、地域の皆様と丁寧な対話を重ねる中で、再編について一定程度のご理解をいただけたと判断した段階で再編準備委員会の設置を進めてまいりたいと考えております。本日は3名の方にご参加いただいておりますが、アンケート用紙も配布しておりますので、ぜひ様々なご意見をお寄せいただき、今後の参考にさせていただければと存じます。本日は誠にありがとうございました。